報告

平成22年度全国専門学科「情報科」研究協議会（三重大会）

三重県立亀山高等学校教諭　鈴木　英博

平成22年度全国専門学科「情報科」研究協議会が，８月23日（月），24日（火）に三重県津市のホテルグリーンパーク津をメイン会場として開催された。この研究協議会は，平成15年に第１回専門学科「情報科」授業研究発表会が東京都で開催され，翌年より現在の名称に改称し，毎年，専門学科「情報科」設置校が持ち回りで実施している。

今年度は，亀山高校が担当となり，産業界との連携も意識する中で，昨年度までの形式を少し変更し，研究協議，情報交換会，記念講演のほかに，地元企業の見学を実施した。

１日目　８月23日（月）

１．開会式

(1) 会長挨拶
全国専門学科「情報科」高等学校長会会長
千葉県立柏の葉高等学校長　柴田　淳

(2) 実行委員長挨拶
三重県立亀山高等学校長　松井愼治

(3) 来賓挨拶
文部科学省初等中等教育局視学官　永井克昇
三重県教育委員会事務局高校教育室長
齋藤俊彰

写真１　開会式の様子

２．研究協議

(1) 生徒研究発表

①「情報＋地域性＝可能性
～ICTがもたらすボーダレスな社会～」

岐阜県立大垣商業高等学校　中村真也　石田凱之

大垣市在住外国人支援のための「交流」と「学習」をテーマとしたコミュニティサイトの構築の取り組みについて報告があった。地域の現状調査から，大垣市内に住む外国人が増加しているのを知り，彼らの抱える諸問題の中で最も問題となる「言葉の壁」を支援するため，情報科で学んだネットワーク構築などの知識を活かした独自のWebサーバーの設置およびポータルサイト運営を行った。技術的な難しさだけでなくセキュリティや情報倫理などの大切さがわかったことや，外国人との「協働」によって，ユニバーサルデザインを意識したことなどが取り組みの成果としてあげられた。

②「お店をプロデュース」

鳥取県立鳥取湖陵高等学校　花木智子　米田さゆり

情報科でイラストレータやフォトショップを利用したデザインを学習しており，それらを実社会で役立てるために，平成19年度から課題研究で取り組んでいるお店のプロデュースについて報告があった。前年度の取り組みに対して反省をし，年度ごとに目標を立てプロデュースしていることや，商品メニュー，サービスメニュー，デジタル広告，パンフレットなどが採用に至るまでの苦労など，実際にプロデュースした理髪店の店長のインタビュー映像を交えながらの報告があった。この取り組みにより，クライアントの要望に沿うものを作ることの難しさなどが伝えられた。

写真２　生徒発表の様子

③「Linux仕様MID端末を活用した
オンデマンド型デジタルサイネージシステム」

三重県立亀山高等学校　尾崎宏幸　亀山聡志　南条晃平

システムメディア科ネットワーク系列の取り組みとしてLinuxを活用した教室用デジタルサイネージの構築や学校施設案内システムの開発について報告があった。亀山高校では，ネットワーク系列の中で学校設定科目として「Linuxサーバー構築」の授業があり，小型のLinux仕様携帯情報端末を利用し，コマンド実習や個別学習用ツールとして活用している。そこで学習した知識や技術を活かしたネットワーク系列ならではの取り組みとして，システムメディア科のHR教室にリースバックPCを有効活用したデジタルサイネージの設置実習と，携帯情報端末に校内の施設情報を表示する学校施設案内システムを開発し，それぞれの取り組みに対する成果と反省が報告された。

⑵　全体会研究発表

①『教育課程研究指定事業の成果と課題』

岐阜県立大垣商業高等学校　上田益久

平成21年度より指定を受けている国立教育政策研究所教育課程研究指定事業について「実践的・体験的学習を生かした専門性の深化と職業観の育成～地域の産業界・大学等との連携を通して～」を研究テーマとして取り組んでいる大垣商業高校独自のデュアルシステム（IT関連企業実習）や倫理観の育成について，地元IT関連企業・大学との連携を通した指導上の工夫が報告された。

②「仁賀保高校情報メディア科の
進路についての考察」

秋田県立仁賀保高等学校　柴田弘喜

平成15年に開科し，今年度で８年目を迎えた仁賀保高校情報メディア科の，平成17年度卒業生（第１期生）から今春卒業した５期生までの５年間の進路状況を，進学（四年制大学，専門学校），就職（県外，県内）に分けて報告があった。在校生の進路希望の現状を分析する中で，①専門学校希望者の大学進学への変更，②専門性を生かした県外への就職指導，③専門性を生かせる地元企業の掘り起こしと進路指導の３点を，今後の進路指導の目標として進めていかなければならないとまとめられた。

③「KNOPPIXの活用」

鳥取県立倉吉総合産業高等学校　山内健靖

本年度から一部の実習で導入しているKNOPPIXについて，その特徴と導入した経緯が説明され，実際にKNOPPIXで実習している１，２年生に対して実施したアンケートから見えてきたことが報告された。生徒にとって不便を感じている「毎回IPアドレス等の初期設定を設定するところ」は，指導者側からは体験的にIPアドレスの概念が身につくと評価しており，生徒にとってのマイナス面も結果的にはプラスになっていることなどが挙げられ，KNOPPIXを導入することのメリット・デメリットはあるが，普段使っているOSとは違うOSで実習させることが，情報科の生徒にとって有意義なツールの１つになるとまとめられた。

④「本校情報科の取り組みについて」

太田市立商業高等学校　大河義則

太田市立商業高校情報科では，専門教科「情報」の目標をふまえ，１年次で基本，２年次で応用，３年次で実践と位置づけ，高度資格取得と実践力を身につけることで確かな学力・生きる力をつけている。発表は，情報処理技術者試験や全商検定の合格状況やシステム開発の取り組み，各種デザイン作品の紹介，市民ワープロ公開講座や高校生が教える中学生パソコン教室の取り組みなどが報告された。また，課題研究における商品開発では「群馬グミ」の開発実践について，テレビで放送された映像が紹介され，平成21年度情報科卒業生の進路状況と情報科の課題についても報告があった。

⑤「新時代を見据えた亀山高等学校発
Linuxの実践と考察」

三重県立亀山高等学校　的場照祥

「新時代に対応した産業教育推進事業」により，50台のLinux仕様MID端末と認証サーバーシステムが導入された。Linuxの導入によって，高度なセキュリティ対応が可能であり，県教育委員会規定の無線LAN利用ガイドラインに則したものとなった。また，従来の情報教育環境と比べて導入コストを削減することが可能であり，情報教室整備の新たな選択肢の１つとして期待される。さらに，今後の情報教育のスタイルを大きく変えうる可能性のあるクラウド環境や，情報室に依存しない授業環境構築の取り組みと成果について報告された。

⑥社団法人　電子情報技術産業協会　講演
「IT・エレクトロニクス業界で求められる
人材とは」

シャープ株式会社東京支社渉外部副参事　土居正弘

IT・エレクトロニクス産業の特徴や国際的な位置づけについて説明があり，社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）の人材育成活動の取り組みとして，「中学生・高校生のためのIT・エレクトロニクス講座」や「大学・大学院向け産学連携モデルカリキュラム」などが紹介された。また，翌日に見学予定のシャープ株式会社の事業紹介をはじめ，IT・エレクトロニクス産業の仕事内容や，やりがい，電子情報産業界が求める人材と新卒採用の課題などについてもご講演いただいた。

(3) 生徒交流会

生徒研究発表の後，全体会研究発表の時間を使い，発表した生徒全員で親睦を兼ねた交流会を行った。

2日目　8月24日（火）

3．学校・企業見学

バスで移動し，亀山高校の見学を行った。１人ひとりに携帯情報端末を配り，前日の生徒研究発表にあった学校施設案内システムを体験していただきながら，システムメディア科の実習教室を見学した。その後，シャープ亀山工場に移動し，液晶パネルからテレビができるまでの工程やソーラーシステムなどを見学し，最新の技術について説明を受けた。

4．記念講演

「専門教科『情報』への期待」

文部科学省初等中等教育局視学官　永井克昇

専門教科「情報」と教科「工業」「商業」との関係や，職業教育に関する国の動き，新学習指導要領の縦横構造など，専門教科「情報」の方向性について講演していただいた。

写真３　記念講演の様子

5．閉会式

(1) 会長挨拶
全国専門学科「情報科」高等学校長会会長
千葉県立柏の葉高等学校長　柴田　淳

(2) 実行委員長挨拶
三重県立亀山高等学校長　松井愼治

(3) 次回開催校挨拶
太田市立商業高等学校長　天田比呂志

最後に，本年度の研究協議会にご参加，並びにご協力いただきました皆様に感謝し報告といたします。ありがとうございました。